

身延山専門學校 第一回卒業論文

昭和十六年度

一、宗祖の法華行法觀	佐竹弘
一、本門戒體論	池上泰信
一、受持成佛論	清水文要
一、四種三段判ニ於ケル文底三段ニ就イテ	高野教誓
一、宗祖の密教觀	厚海學眞
一、上行自覺論	武内歎良
一、日蓮聖人の國體觀	杉山寶淳
一、唱題成佛論	淀川滋洲
一、台當兩家異相論	鈴木新二
一、本化攝折論	渡邊泰壽
一、宗祖の國神觀	増田能成
一、本門戒壇論	佐藤俊雄
一、本門戒壇論	村田海仙
一、本化攝折論	野口耀源

専門學校卒業論文

- 一、當家本尊人法論 香川英頂
- 一、當家に於ける因果觀 遠藤勝泰
- 一、三秘抄に依る本門戒壇建立に就いて 酒井圓通

餘白へ

編輯子 石川 是行

愚痴でもない、皮肉でもないが、祖山の學徒は、此の學報(會報)と言ひ度く無い)を己のものであることを忘れてゐる。編輯を幹事一人にまかせる、それも良からう。が然し、例へ少頁の雜誌を創るにしても、原稿がなくては、目的は達せられないそれも——他の爲では無い、自の爲ではないか、該當幹事は學報を作る、難さよりも、如何にして原稿を收獲するかに苦勞する。

今後は、かうした餘分な努力を拂はせない爲にも、在校の學徒は云はずもがな、離山後と雖も依頼の有無を問はずどしどし投稿して欲しい。昇格は確かに、專、中共に成功したのであるが、それに反して何たる不勉強、不努力、不反省なる現在の状態